

# 校内研修指導資料

加須市立豊野小学校 校長 清水 典子

※「花崎北小学校校内研修資料 H31.4.25 より抜粋・加筆したもの」

## 1 国語科の動向

### (1) 国語科改訂の趣旨及び要点「小学校学習指導要領解説国語編」(平成29年7月) P6~8から抜粋

○生徒の「読解力」は、世界的にみて高い水準にあるものの課題が明らかになった。

- ・PISA2012(平成24年実施)の結果においては「読解力」の平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっているなどの成果が見られたが、PISA2015(平成27年実施)においては、読解力について、国際的には引き続き平均得点が高い上位グループに位置しているものの、前回調査と比較して平均得点が有意に低下していると分析がなされている。これは、調査の方式がコンピュータテスト(CBT)に全面移行する中で、子供たちが、紙ではないコンピュータ上の複数の画面から情報を取り出し、考察しながら解答することに慣れておらず、戸惑いがあったものと考えられるが、そうした影響に加えて、情報化の進展に伴い、特に子供にとって言葉を取り巻く環境が変化する中で、読解力に関して改善すべき課題が明らかになったものと考えられる。

○全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた小・中学校における課題とは

- ・全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題があることが明らかになっている。中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっている。

○言語活動の充実を踏まえた更なる授業改善が必要。

- ・一方、全国学力・学習状況調査において、各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置づけた学校の割合は、小学校、中学校ともに90%程度となっており、言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている。しかし、依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が求められる。  
【平成26年11月中央教育審議会答申】

### (2) 国語科の目標及び内容の構成

【「小学校学習指導要領解説国語編」(平成29年7月) P6~8】から抜粋

#### ① 目標の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。また、このような資質・能力を育成するためには、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示している。学年の目標についても、従前、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域ごとに示していた目標を、教科の目標と同様に、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

## ②内容の構成の改善

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直した。〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕は以下のとおりである。

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、国語で正確に理解し適切に表現する上で共に必要となる資質・能力である。したがって、国語で正確に理解し適切に表現する際には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの「思考力、判断力、表現力等」のみならず、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する「知識及び技能」が必要となる。このため、今回の改訂では、資質・能力の三つの柱に沿った整理を踏まえ、従前の3領域1事項の内容のうち、国語で正確に理解し適切に表現するために必要な「知識及び技能」を〔知識及び技能〕として明示した。この〔知識及び技能〕に示されている言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」は、個別の事実に知識や一定の手順のことにのみを指しているのではない。国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

こうした「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成において大きな原動力となるのが「学びに向かう力、人間性等」である。「学びに向かう力、人間性等」については、各学年等の目標において挙げられている態度等を養うことにより、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成が一層充実することが期待される。

【「小学校学習指導要領解説国語編」(平成29年7月) P6~8】

## (3)学習内容の改善・充実

### ①語彙指導の改善・充実

・各学年において、**指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を系統化**して示した。

### ②情報の扱い方に関する指導の改善・充実 → **新設**

・「情報の扱い方に関する事項」を新設した。

### ③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視 → **追加**

・〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置づけた。また、全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項を位置づけた。

### ④我が国の言語文化に関する指導の改善・充実 → **追加**

・指導事項を整理し、その内容の改善を図った。

### ⑤漢字指導の改善・充実 → **追加**

・都道府県名に用いる漢字を加えるとともに、配当漢字及び字数の変更を行った。

## (4)学習の系統性の重視 → **継続**

## (5)授業改善のための言語活動の創意工夫 → **継続**

## (6)読書指導の改善・充実 → **継続**

【「小学校学習指導要領解説国語編」(平成29年7月) P6~8】

【「埼玉県小学校教育課程編成要領」平成30年3月埼玉県教育委員会 P9~10】

## 1 話し方・聞き方の指導

## (1) 教師の話し方のポイント

- ① 明るい声で話す。
- ② 一文は短く話す。
- ③ 説明全体はできるだけ短くする。  
(説明がたくさんあるときは「これから3つ話します。」等のように整理して話すとうわかりやすい。)
- ④ 丁寧な言葉遣いで話す。
- ⑤ 発問・指示は繰り返さず、1回で聞き取らせる。
- ⑥ 声が小さい児童の発言は叱らずに、そばに行って聞く。内容をほめて自信をもたせる。
- ⑦ よい発言やよい活動はほめる。間違いは正す。感想などは否定しない。

## (2) 児童の話し方指導のポイント

- ① 手を挙げるときには黙って挙げる。
- ② 指名されたら「ハイ」と返事をする。
- ③ 立って、あるいは座ったまま話す。(状況に応じて指示する。)
- ④ 教室全体に聞こえる声の大きさと話す。
- ⑤ ノートやプリントに書いたことを発表するときは、手に持って話す。  
(下を向いて話すと、声が聞き取りにくくなる。)
- ⑥ 正しい言葉遣いで話す。(です・ます)
- ⑦ 学習や行事の後など一言感想を言う機会を多く与え、話し言葉を鍛える。

## (3) 児童の聞き方指導のポイント

- ① 話している人の方を見る。
- ② 黙って聞く。(私語を許さない。関係のないふざけた発言をしたときは叱る。)
- ③ 手に何も持たないで聞く。
- ④ うなずいたり、返事をしたりなど、反応しながら聞く。
- ⑤ 自分と友達の意見を比べながら聞く。(高学年)
- ⑥ 話の内容をキーワードで聞き取る。  
(「校長先生の話はいくつありましたか。キーワードで答えなさい。)
- ⑦ 教師は、本の読み聞かせを適時行い、集中して聞く力を児童につけさせる。

## (4) メモの取り方の指導のポイント

- ① メモは、ひらがなで書き取らせる。(漢字・仮名まじりでもよい。)
- ② キーワードのみ、自分が読める字で書く。
- ③ 簡単な単文を教師が読み上げ、キーワードのメモを取る練習をさせる。  
例 先生の朝ごはんは、ごはんとたまごとりんごです。  
→この場合、キーワードは、朝ごはん ごはん たまご りんご
- ④ 遠足のバスレクなどで、伝言ゲームとして聞き取りの練習をするとよい。
- ⑤ すばやく書き取らせるために視写、聴写を5分くらいの短時間で、授業の初めや朝の会、帰りの会等の時間を利用して、繰り返し行くとよい。

## 2 音読の指導

- ①教師が全文を範読する。
- ②淡々とややゆっくり読む。(朗読ではない。理解のための音読である。)
- ③読めない漢字には、かなをふらせる。
- ④各自音読練習を2・3回させる。(時間で区切る。)
- ⑤机間指導する。(各自の声を聞く・姿勢・本の持ち方)
- ⑥一斉音読する。ア 声をそろえる。  
イ すらすら読む。  
ウ 始め方「夏になると、ハイ。」  
エ つかえたら、範読をして、もう一度音読させる。
- ⑦一斉音読の評価を短く言う。(例)「声を揃えてよく読めました。」
- ⑧国語科だけでなく、どの教科でも音読をする。
- ⑨○を10個書き、読んだら赤で塗りつぶしていく。10回音読ができたなら印を押す。

## 3 ノートの指導

- ①日付を書く。
- ②文字をマス目に大きく、はっきりと書く。
- ③鉛筆の濃さは、低学年は2B、高学年はBがよい。
- ④視写の指導などで、文字を書く学習を意図的に入れる。
- ⑤授業の中でノートを機能させる。  
ア 課題に対する自分の答えや考えを書く「思考メモ」としての機能。  
イ 授業の要点を整理する「要点」機能。  
ウ 視写などの技能を高める「練習」機能。
- ⑥どの学年でも鉛筆の持ち方、書く時の姿勢のモデルを示す。
- ⑦文字を詰めて書きすぎないように注意する。(一行空けることなどを指示する。)
- ⑧簡条書きの基本を指導する。  
(番号をふらせる。簡条書きの数字の高さはそろえて、数字の横は空けるなどの指導をする。)
- ⑨教材研究の時に、児童と同じノートに書いておくとよい。

## 4 板書の仕方

- ①文字のはね・払い・折れ・止め等を正しく書く。
- ②できるだけきれいな字で速く書く。
- ③後ろの席の児童にも見えるような大きさと書く。タイトルは大きめに書く。
- ④筆順は正しく書く。
- ⑤チョークの色は基本が白。文字を書くときは青や緑は見にくいので使わない。
- ⑥大事なことは黄色で書く。
- ⑦児童の発言のポイントを判断して板書する。
- ⑧児童にも板書する機会を与える。
- ⑨手を挙げた児童だけでなく、列や班で書かせるなどの工夫をする。
- ⑩消すときは縦に消させる。

## 5 読書の指導

- ①図書室に1ヶ月に1回は、学級全員で行く。
- ②読書タイム(15分)は出歩かず、静かに読む。
- ③読書カードに読んだ本の題名、作者名、ページ数などを記録する。
- ④読み聞かせを静かに聞く。(担任やボランティアの方、校長先生など)

## 6 漢字指導

### (1) 学習指導要領から… [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

例 小学5・6年

(1) **言葉の特徴や使い方に関する次の事項**を身に付けることができるように指導する。

ア 言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、**送り仮名や仮名遣いに注意**して正しく書くこと。

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、各学年別配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

カ 文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。

ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。

ケ 文章を音読したり、朗読したりすること。

(2) 語や文章に含まれている**情報**の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

イ 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。

イ **古典**について解説した文章を読んだり作品の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

エ 書写……以下略

【「小学校学習指導要領解説国語編」(平成29年7月) P187~188】

### (考察)

- ① 3領域1事項で構成していた内容を〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直した。
- ② **情報に関する事項**が新設された。
- ③ 親しみやすい古文や漢文を小学校段階では、音読して親しめばよい。
- ④ [知識及び技能]における「言葉の特徴や使い方に関する事項」で最も大切な指導は、国語の基礎となる敬語の指導と漢字の指導である。特に漢字の指導は、書き順・読み方・書き方・運用などについて、**学校で時間を取って教える**必要がある。
- ⑤ 板書は、学習指導の基本である。教師自身が自信をもって、板書をするためにも、漢字の筆順は正確に身に付けておく必要がある。
- ⑥ 低学年などで行われる色鉛筆を使った筆順指導は、1年生の頃のごく初期には有効だが、画数が多くなると色が間に合わなくなったり、組み立て工場のように、1画ずつ色を書いていくようなことを始めると効果がない。むしろ、空書き、指書き、なぞり書きを徹底して、えんぴつで書かせた方がよい。

### (2) 漢字の学習指導について

- ① 漢字の学習は基礎学力である。
- ② 漢字の学習では、**読み方、書き順、使い方**を教える。
- ③ 書き順は、**空がき**させるとよい。

- ④字の使い方は、熟語や文を音読させる。
- ⑤ドリルなどを活用して、繰り返し練習する方法を知らせる。
- ⑥漢字テストなどで定着を図る。
- ⑦家庭学習にまかせず、学校で指導する。

## 7 「読むこと」の学習

### (1) 論理的文章の基本的指導

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| ①音読練習をする。          | 低・中・高 |
| ②重要語句（キーワード）を取り出す。 | 低・中・高 |
| ③文章構成を確かめる。        | 中・高   |
| ④要旨をまとめる。          | 高     |
| ⑤文章構成を利用して作文を書く。   | 低・中・高 |

### (2) 文学的な文章の基本的な学習

- ①音読（理解のための音読練習。すらすらと読む。）
- ②登場人物を確認する。（一人の人物に複数の名づけがある場合がある。）
- ③あらすじをまとめる。（5つにまとめるとうまくいくことが多い。）
- ④中心人物の変化に着目する。「ごんぎつねは、はじめに兵十は何をしましたか。」  
「ごんぎつねは、おわりに兵十に何をしましたか。」  
「ごんが変わったのは、どこですか。」  
◎いたずら小ギツネ→つぐないをする成長した小ギツネ
- ⑤描写の読み方に気づかせる。
  - ・自然描写は1枚の絵のようにイメージをつくる。情景が明るいか暗いか、楽しいか等を読み取る。
  - ・人物描写は会話や風貌の様子から、どんな人物かを読み取る。
- ⑥感想を自由に話し合う。
- ⑦物語や小説を進んで読むようにする。

## 8 「書くこと」の学習

### (1) 論理的思考力・表現力を高めるための言語技術

- ①論理的文章の「読むこと」の学習と関連づけて指導する。
- ②文章の書き方（表現したいことを筋の通った文章で組み立てて書く）を教える。
- ③論理的な文章構成を示して書かせる。（例「はじめ・なか・まとめ・むすび」）
- ④学年に応じた日常的なテーマ（学校行事・学習報告など）を選ぶ。
- ⑤学年に応じた文章の長さで書く。（1年口頭作文・80字、2年120字、3・4年200字、5・6年400字）
- ⑥作文メモは1段落1キーワード（1センテンス）で書く。
- ⑦メモは、「まとめ」から考えると論理的に組み立てやすい。
- ⑧作文は段落ごとに添削をする。1段落に1つのことをくわしく書く。言い回しなどを1～2カ所添削する。
- ⑨清書の前に推敲の観点（2～3こ）を示した「作文の書き方」プリントを配り、丁寧に清書させる。
- ⑩評価は教師がよい書き方の児童の作文を各段落ごとに読み上げながら、返却する。
- ⑪作文は学校で指導する。家庭での宿題にはしない。

### (2) 基礎的な表現技能を高める言語技術

- ①正しく視写をする。
- ②文字、句読点、行の変え方などを添削する。
- ③原稿用紙の使い方を手本にして練習させる。（作文の視写が有効）

## 資料 2

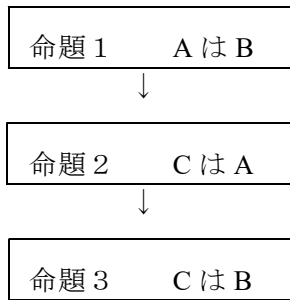
### 論理的思考力

(1) 「論理」…推論の仕方、思考の筋道のことである。次の二つに大別される。

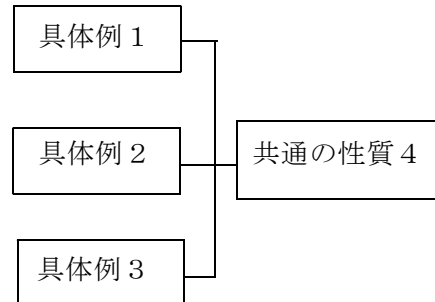
- ①演繹論理…命題から命題を導く論理。三段論法がその一例である。
- ②帰納論理…複数の具体例から共通の性質を導く論理。自然科学の法則がその一例である。

(2) 「論理的思考」とは何か。…論理の型に従って思考することである。

① 演繹論理



② 帰納論理



※小学生と中学生の初めは、「帰納論理」の習得が発達段階に合っている。中学生では、「帰納論理」が身につけてきたら「演繹論理」も取り入れていく。

(3) 論理的な文章構成… はじめ・なか・まとめ・むすび

①「帰納論理」を基本とする文章構成である。説明文や論説文の多くは、この文章構成で書かれている。

文章構成	記述内容	全体における長さの割合
はじめ	これから書くことの紹介	1 / 10
なか	具体例の記述・いくつかに分かれる	7 / 10
まとめ	「なか」の共通の性質	1 / 10
むすび	筆者の意見・主張	1 / 10

②「なか」の具体例を選んだり、「なか」から共通の性質である「まとめ」を導いたりするときにはたらく思考が帰納的思考である。「まとめ」から意見や主張である「むすび」を導くときにはたらく思考が演繹的思考である。

③この文章構成で作文を書かせると論理的な作文となる。その際、まずは「まとめ」までの文章構成で繰り返し書かせ、習熟したら「むすび」も書かせるようにする。

《参考文献》

- 1 思想の科学研究会編『新版哲学・論理用語辞典』1995 三一書房
- 2 久野収・鶴見俊輔編『思想の科学辞典』1969 頸草書房
- 3 市毛勝雄『国語科教育の授業改革論』1988 明治図書

## 資料 3

## 説明的文章の読み方

### 1 説明的文章の基本的な型

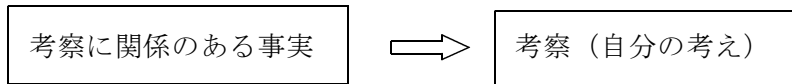
#### (1) 「報告」の形式

- 序論…報告の対象となる事実、及び調査の目的・意義などを述べる。(はじめ)  
本論…事実についての調査の方法・内容・結果を述べる。(なか)  
結論…調査の結果に対する考察を述べる。(まとめ)

#### (2) 「論説」の形式

- 序論…報告の対象となる事実、及び調査の目的・意義などを述べる。(はじめ)  
本論…問題に関係のある事実(いくつかの事実群の調査結果)に対する考察を述べる。(なか)  
本論…事実(いくつかの事実群)の調査結果)に対する考察を述べる。(まとめ)  
結論…考察に基づいて、問題に対する意見・主張を述べる。(むすび)

※1 このような構成を持った易しい文章を読んだり、書いたりさせることが、生徒の論理的思考力を育てる。



※2 客観的な事実を正確に判断する力や、正しく推論する力を鍛える。

### 2 説明的文章の学習活動に必要なポイント

#### ★ポイント1 すらすら音読

- ①教師が範読をする。難語句や新出漢字にふりがなをふらせるなどして正確に読みを教える。
- ②音読の練習を2～3回させる。声の大きさは、つぶやき程度で十分である。
- ③一斉音読をさせる。1分間に300字程度の速さで音読させる。

※1 新学期当初は、うまく音読できない。継続的に指導すると2週間ほどで速読できるようになる。

※2 詩歌の語句はイメージが大切だからじっくり読み浸るのが正しい。説明的文章は、一段落全体が一つの事実や性質を述べているので、段落全体を丸ごとつかむ読み方でないと理解できない。

※3 演繹論理の文章や詩などは、ゆっくり読むと分かることがある。自然科学的な説明的文章は、速く読まないとしらべや性質の全体像が丸ごと見えてこない。

#### ★ポイント2 キーワードの確認

- ①形式段落に番号をつける。
  - ②意味段落のキーワードを抜き出す。
  - ③キーワードの一覧表で文章構成を確認する。
- ※1 一つの段落には、一つの事柄や一つの意味によって形成されている。  
※2 一つの内容を示す形式段落のいくつかのまとまりを意味段落という。  
※3 小中学校では、意味段落で構成されている短い文章例が指導しやすい。  
※4 キーワードの一覧表を概観すると文章の内容のあらましが分かる。



### ★ポイント3 説明的文章と作文を結びつける（PISA型読解力）

- ①文章構成表を確認する。
- ②自分の作文の構成一覧表を作る。
- ③構成一覧表に従って作文を書く。

※1 400字以内。形式は「はじめ・なか1・なか2・まとめ・むすび」の5段落とする。

※2 「はじめ」2行、「なか1」7行、「なか2」7行、「まとめ」2行、「むすび」2行とする。

※3 心情が感動的に書かれた文学的な作文を目標としない。自分の考えをはっきりとまとめる説明的な作文を書かせる。

### 3 説明的文章指導の疑問

(1) 語句の意味を調べなくてよいのか。

- ①語句の意味調べは、大切な学習である。
- ②しかし、抽象的な語句を説明しても文章の読解にはならない。言い換えで十分である。

(2) 接続詞の指導をしなくてもよいのか。

- ①接続詞は、これから読むはずの段落を読者に予告して、理解の助けにするだけの役目である。
- ②接続詞が論理的な文章構成を作り出してはいない。論理を作り出すのは「事実」と「事実」との関係である。

(3) 文章の内容の価値を指導しなくてよいのか。

- ①説明的文章は、思想を学ぶための教材ではない。
- ②説明的文章は、論理的な思考力と論理的な表現力を学ぶために学習をする。
- ③ひたすら理解し解釈に追われ、自分の意見や言葉を育てる機会を与えない国語教育ではPISA型読解力は育たない。